

山 大 医 学 部 病 院 だ よ り

Yamaguchi University
Faculty of Medicine and Health Sciences

Yamaguchi University Hospital

NEWS



アレルギーセンター 4月開設

3
2022

VOL.255



山口大学大学院医学系研究科 医学専攻
ゲノム・機能分子解析学講座 教授

白井睦訓

このたび、令和4年3月末日をもって定年退職いたします。山口大学医学部附属病院の皆様には、長年にわたり大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

私は、昭和56年山口大学医学部医学科を卒業し、昭和57年財団法人がん研究所研究員、レジデント、昭和60年東京大学大学院医学研究科博士課程修了、昭和60年東京大学附属病院分院助手、平成1年文部省在外研究員として米国国立衛生研究所(NIH)同癌研究所(NCI)ワクチン研究部門派遣、平成2年NIH研究員・米国国家公務員、平成7年香川医科大学消化器内科兼任講師、平成12年〜現在山口大学大学院医学系研究科ゲノム・機能分子解析学分野(微生物学)教授、平成20年山口大学大学院医学系研究科情報解析医学系専攻長、平成28年度から山口大学副学長(大学評価担当)として、山口大学評価委員会委員長、山口大学内部統制会議、

山口大学部局長会議、山口大学評議員会、山口大学経営協議会などに寄与させていただきました。その間、文科省や経産省など省庁の学術委員を務めました。医学部医学科では微生物学教育に尽力し、学生部委員の時に、全国に先駆けて医学科に推薦入学と地域枠制度を企画しました。研究では、日本学術振興会未来開拓学術研究推進事業、経産省NEDO、NITE事業、文科省タンパク3000事業、農水省新技術創出事業などを受託し、我が国の病原菌全ゲノム解読第一号となる肺炎クラミジアや、日本紅斑熱リケッチア、酢酸菌など多くの細菌の全ゲノム解読をしました。

学会活動では、日米医学協力会議メンバー(日本医学会主催、文科省後援)、日本細菌学会評議員会議長、理事、監事、評議員、日本感染症学会評議員、西日本理事、日本肝臓学会西部会評議員、指導医などを勤めました。診療業務では附属病院総合診療部・一般内科外来、院内感染専門部会委員、感染制御部院内感染対策チームメンバー、山口大学医師会監事などを勤めました。定年後は、広島市に転居して病院長として医療に精励する所存です。最後になりましたが、山口大学医学部・附属病院のご発展と職員の皆様のご健康を祈念いたします。



山口大学大学院医学系研究科 医学専攻
臨床神経学講座 教授

神田 隆

このたび、令和4年3月末日をもって定年退職いたします。山口大学医学部・附属病院の関係者の皆様には、17年余にわたりひとかたならぬお世話になりました。心より感謝申し上げます。

私は昭和56年3月に東京医科歯科大学医学部を卒業後、当時医学部の臨床講座として日本で最初に設立された同大学神経内科学教室に入局、医師、大学院生として神経内科医のキャリアをスタートしました。4年間の米国留学(南カリフォルニア大学、ヴァージニア医科大学)から帰国後、母校の講師、助教授を経て平成16年9月に神経内科教授として山口大学医学部に赴任いたしました。脳神経内科は神経変性疾患や末梢神経・筋疾患だけでなく、脳血管障害、認知症、てんかん、頭痛など広範な領域を守備範囲としていますが、日本では診療科としてのスタートが遅れ、未だ社会の

認識も人員も十分ではありません。私は山口に着任して、スタッフも予算も限られた中でどのように世界に伍する教室を作ることができるか、ということを自らの課題とし、臨床面では世界に通用する臨床能力を持つニユーロジストを育てること、研究面では当時必要性を皆が感じていたにもかかわらず達成できていなかったヒト血液脳関門・血液神経関門モデルの作成、を2つの柱に取り組んできました。幸い、私の考えに共感してくれる優秀な卒業生に恵まれ、この2つの目標は及第点をもらったのではないかと思います。私の出身教室も発足間もない、総てを自分たちで作ったこと思えばいけなない組織であったことを思い出しながら、山口で第2の青春を楽しむような気持で教室作りができました。次の世代の教室を支える人材は十分に育ってくれたと思っています。

退任後は連携講座の特命教授として、神経難病患者をトータルで診る山口県内の診療体制の確立という命題に向かって第3の青春を始めようと考えています。山口大学・附属病院の皆様のご発展とご健康をお祈りするとともに、変わらぬご支援を賜りたいと存じます。

長年にわたりお世話になりました



山口大学大学院医学系研究科 医学専攻
泌尿器科学講座 教授

松山豪泰

このたび、令和4年3月末日をもちまして定年退職いたします。私は昭和56年に山口大学医学部を卒業後、2代酒徳教授の門下として泌尿器科に入局いたしました。昭和58年に大学院に入学し、学位を取得しました。大学院試験問題は『やりたい研究テーマを一つとその理由を書きなさい』で、第1希望分野(腎移植)は見事に外れ、第2希望の腫瘍グループに回され、当時はがっかりしましたが、何が幸いするかわかりません。「思い通りにならなくても、とにかく前向きにやれば道が開ける」ことを悟りました。平成2年に3代目内藤教授が金沢大学より就任され、平成4年〜6年にスウェーデン王立

カロリンスカ研究所に留学させていただきました。幸いにも平成8年に2つ目の学位(PhD)を取得いたしました。帰国後は助手(現在の助教)に復帰し、講師として病棟医長を務め、平成8年に山口

赤十字病院に泌尿器科部長に赴任しました。教授より片道切符を渡されていたのですが、諸般の事情で平成13年に大学に助教授として復学することになりました。平成20年8月に4代目の泌尿器科学講座教授を拝命し、この間医学部医学科長補佐、附属病院副病院長、教務委員長(2回)、医療人育成センター長等を経験させていただきました。在任14年をあっという間に駆け抜けた感があります。若い先生に教訓めいたことを挙げるとすれば「思い通りにならなくても、とにかく前向きにやれば道が開ける」「見無駄と思うようなことも後で役に立つことがある」の二つです。若い先生には最短距離で最適解を求めるのではなく、多少意にそわないことがあっても前向きにとらえ、回り道を楽しむ余裕が将来につながることを信じて、頑張ってくださいと思います。退職後はJ-A山口厚生連総合病院長として、長門総合病院で勤務予定です。今後ともご支援のほど、よろしくお願いいたします。

最後になりますが、山口大学医学部附属病院のますますのご発展を祈念いたしますと共に、皆さまのこれまでのご厚情に心より御礼申し上げます。

Topics トピックス

Topic 診療紹介冊子「知っちよる? 山大病院」をリニューアル発行しました

診療紹介冊子「知っちよる? 山大病院」とは、当院の診療内容をより広く知っていただくことを目的に、ページ数を増やしながら毎年発行しています。今年度は昨年度版より13ページ増え、22の診療科と4つの診療施設の内容を54ページにわたってご紹介しています。当院の外來棟などでラックに設置しておりますので、見かけたらご自由にお持ち帰りください。

新しくなった「知っちよる? 山大病院」

診療科	診療施設
●消化管内科	●検査部
●胆道膵臓内科	●放射線部
●肝臓内科	●薬剤部
●循環器内科	●看護部
●糖尿病・内分泌内科	
●血液内科	
●脳神経内科	
●呼吸器・感染症内科	
●小児科	
●消化管外科	
●肝胆膵・移植外科	
●整形外科	
●皮膚科	
●形成外科	
●泌尿器科	
●眼科	
●耳鼻咽喉科	
●放射線科	
●産科婦人科	
●麻酔科蘇生科	
●脳神経外科	
●歯科口腔外科	

アレルギー疾患患者が安心して生活できる
地域社会の構築を目指す

Information

お知らせ

4月開設 アレルギーセンター

山口大学医学部附属病院は令和2年4月にアレルギー疾患医療拠点病院として認定されました。そしてこの度、拠点病院である本院にアレルギーセンターを開設します。このアレルギーセンターでは、県民の皆様がどこにお住まいであっても、適切な医療が受けられるように、県内のネットワークを構築し、その中心的な役割を果たすことを目的としています。

アレルギー疾患には気管支喘息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、花粉症を含むアレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎などが含まれ、山口県内のアレルギー疾患患者数は年々増加しています。しかし、患者さんは増加しているにもかかわらず、アレルギー専門医の数は全国的に見ても少ないことが山口県の課題の一つです。(参考：山口県内のアレルギー専門医15名(全国3,807名))

他にもこの症状はアレルギーかな?と感じても、どこでだれに相談したらよいかかわからず、インターネットで得た誤った情報を鵜呑みにしてしまい、その結果なかなか症状がよくなることあるのではないのでしょうか。

このような課題を山口県や県内の医療機関と協力しながら、アレルギー症状でお困りの皆様が安心して生活できる地域社会の構築を目指します。

本センターではアレルギー疾患患者さん向けの相談窓口の設置、適切な情報発信、多職種の人材育成など、将来を見据えたアレルギー対策の推進を図っていきます。

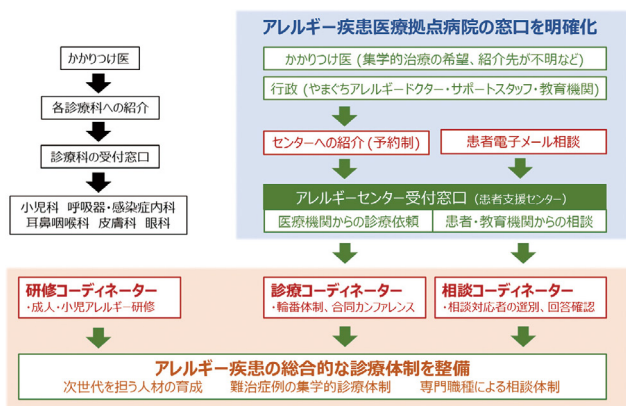


アレルギーセンター長の松永和人・呼吸器感染症内科教授(左)
と副センター長の長谷川俊史・小児科教授

ごあいさつ

センター開設に伴い、紙面をお借りしてご挨拶させていただきます。当センターは平成27年に施行されたアレルギー疾患対策基本法に則り、県民の皆様が適切なアレルギー専門診療が受けられることを目標に、運営されていきます。前述の如くアレルギー疾患を有する患者さんは増加傾向にあり、疾患自体も難治化、重症化、複雑化しています。一方で気管支喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎には近年新しい治療法、薬剤が使用できるようになり、食物アレルギーに関しても“食べさせない時代”から“食べさせる時代”になってきました。最先端で、適切な情報発信をしながら、より良いアレルギー診療が提供できるように尽力していきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

新たな診療と患者支援のフロー



YouTube山口大学病院チャンネルで
アレルギーの情報をお伝えしています。

youtube 山口大学病院チャンネル 検索



公式Facebookページで
山大病院の情報を配信中!!



企画発行 山口大学医学部広報委員会・山口大学医学部総務課総務係
〒755-8505 山口県宇部市南小串一丁目1番1号 TEL 0836-22-2007
医学部 <http://www.med.yamaguchi-u.ac.jp/>
附属病院 <http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/>